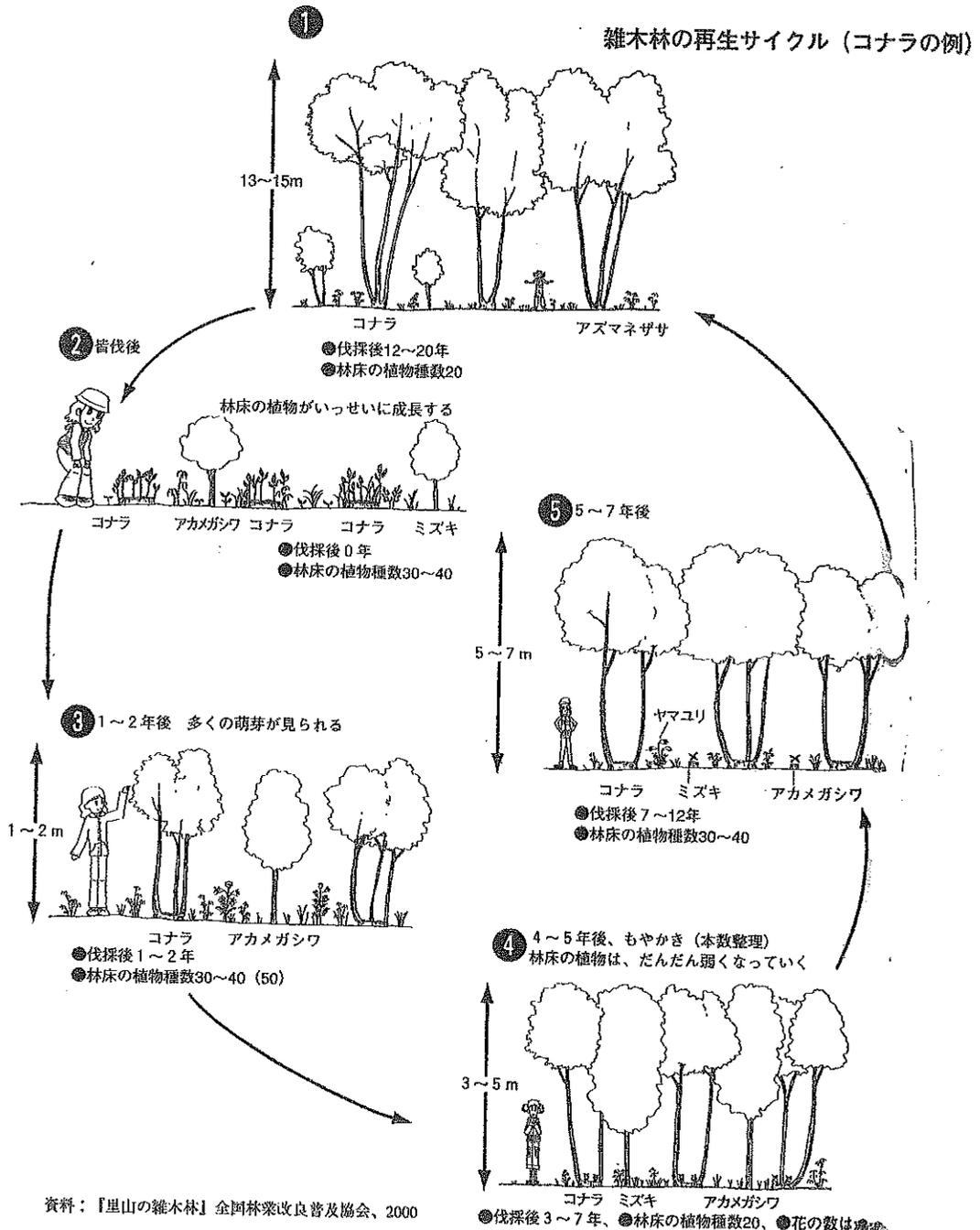


雑木林??? 伐採して再生するしくみ

20年ほどの伐採・萌芽の再生サイクル

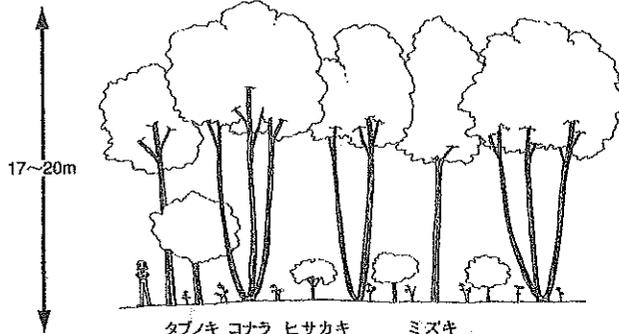
雑木林の最大の特徴は、伐採しても根元から萌芽し、それが成長して再び林に戻る再生サイクルが可能な点です。林に入った時に根元(切り株)から二股またはそれ以上の側枝になっている事があります。これは、この地域の人々が木を伐採した痕跡です。下の図はコナラの再生サイクルです。長期間放置すると竹林になってしまいます。

大木になった木は、放置すると林の中に光が差し込まなくなり土や腐葉土、種子が流れ瓦礫がむき出しになります。また、根返り(根元から倒れる)が起こり山が崩落します。



資料:『里山の雑木林』全国林業改良普及協会、2000

⑥ 1→2→3……にならずに放置その1



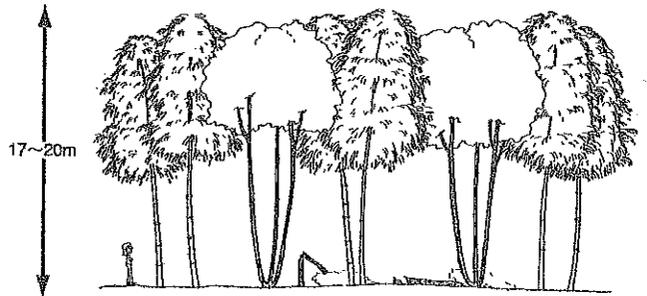
タブノキ コナラ ヒサカキ

ミズキ

●伐採後40～50年

●林床の植物種数 5～7

⑦ 放置その2



モウソウチク コナラ

●伐採後40～50年、●林床の植物種数 3～5

もやかき

伐採した木は、切り株から新しい枝が（ひこばえ）が出てきます。このひこばえを全て残したのでは細い枝ばかりになります。1m～2m程度の育った秋から冬に2～3本を残して切りましょう。この作業がもやかきです。

斜面でのもやかきは、斜面の上側の彦映えを残すようにしましょう。山の崩落を防ぎます。

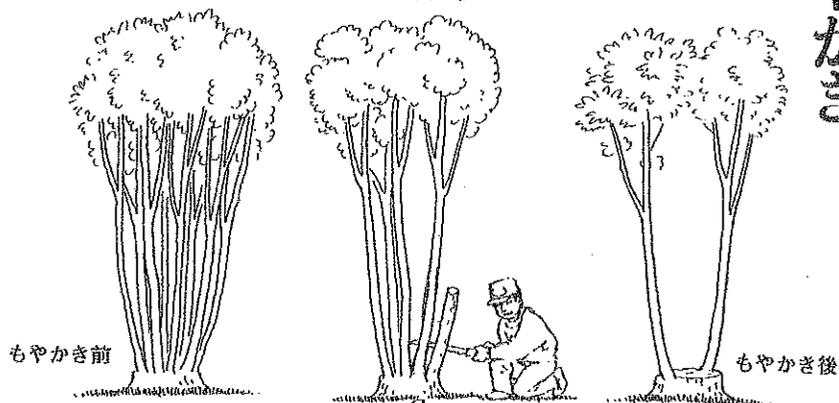
人工林では、伐採の後植樹をしています。このようにもやかきをして木を成長させることも雑木林の施業です。

もやかきの方法

方法・ひこばえが出てから4～6年くらいで行う。めやすは、萌芽したものが、互いに触れはじめてから。太くて、丈夫なものを残すようにし、最後は2～3本まで減らす。時期的には、木が成長を止める秋～冬がよい。昔は、うまく管理ができるように、互いの木の間隔がそろえられていた。間に生えたアカメガシワ、ヌルデ、ニワトコ、ミズキといった実生型早生樹は、萌芽株が十分大きくなってから伐採する。

道具 手ノコ

もやかき



切り株からたくさんひこばえが伸びる。このままにしておくと一本一本が細長くなるので、もやかきを行う

腰の高さでまず切り、次に根元を切る。二度切りで、楽に安全に作業しよう

資料：中川重年「早山の雑木林」全国林業改良普及協会、2000